

立命館大学大学院
2024年度実施 入学試験

博士課程前期課程

社会学研究科
応用社会学専攻

入試方式	実施月	社会学	
		ページ	備考
一般入学試験	9月	P.1~	
	2月	P.7~	一部窓口公開のみ (WEB非公開)
社会人入学試験	9月		
	2月		
外国人留学生入学試験 (RJ方式)	9月	P.1~	
	2月	P.7~	一部窓口公開のみ (WEB非公開)
学内進学入学試験	7月		
	9月		
	2月		
APU特別受入入学試験	9月		
	2月		
飛び級入学試験	2月	×	

【表紙の見方】

×・・・入学試験の実施がなかった等の理由で入学試験問題の作成がなかったもの、または、問題を公開しないもの
斜線・・・学科試験(筆記試験)を実施しないもの

立命館大学大学院
2024年度実施 入学試験

博士課程後期課程

社会学研究科
応用社会学専攻

入試方式	実施月	社会学		外国語(英語)	
		ページ	備考	ページ	備考
一般入学試験	9月	P.4~		×	
	2月	P.10~		×	
社会人入学試験	9月	P.4~			
	2月	P.10~			
外国人留学生入学試験	9月	P.4~		×	
	2月	P.10~		×	
学内進学入学試験	9月			P.6~	
	2月			P.11~	

【表紙の見方】

×・・・入学試験の実施がなかった等の理由で入学試験問題の作成がなかったもの、または、問題を公開しないもの
斜線・・・学科試験(筆記試験)を実施しないもの

【2025 年 4 月入学】社会学研究科応用社会学専攻 博士課程前期課程

社会学

<受験上の注意事項>

1. 答案用紙の記入の仕方

研究科名	専攻名	課程	受験科目名	受験番号	氏名
社会学研究科	応用社会学 専攻	前期課程	社会学	自分の 受験番号	自分の氏名

2. 解答方法

解答は答案用紙に記入すること。なお、裏面の使用や用紙の追加は認めない。

3. 持ち込み許可物件

持ち込み許可物件はなし。

4. その他

問題用紙・メモ用紙も提出すること。

— 社会学 — (横書き)

問1 次の20の語句から3つを選択し、それぞれの内容について説明しなさい。

1. オリエンタリズム
2. 労働市場の二重構造
3. 医療アクセス
4. 国民負担率
5. 近代家族
6. 世界システム (論)
7. 性別職域分離
8. アテンション・エコノミー
9. メディアはメッセージである
10. ジェントリフィケーション
11. 議題設定機能 (議題設定効果)
12. 半構造化インタビュー
13. ダブルバーレル質問
14. セツルメント
15. 近代スポーツと男性中心主義
16. 文化的再生産論
17. 承認をめぐる闘争
18. ベーシック・インカム
19. オリンピズム
20. 代表値

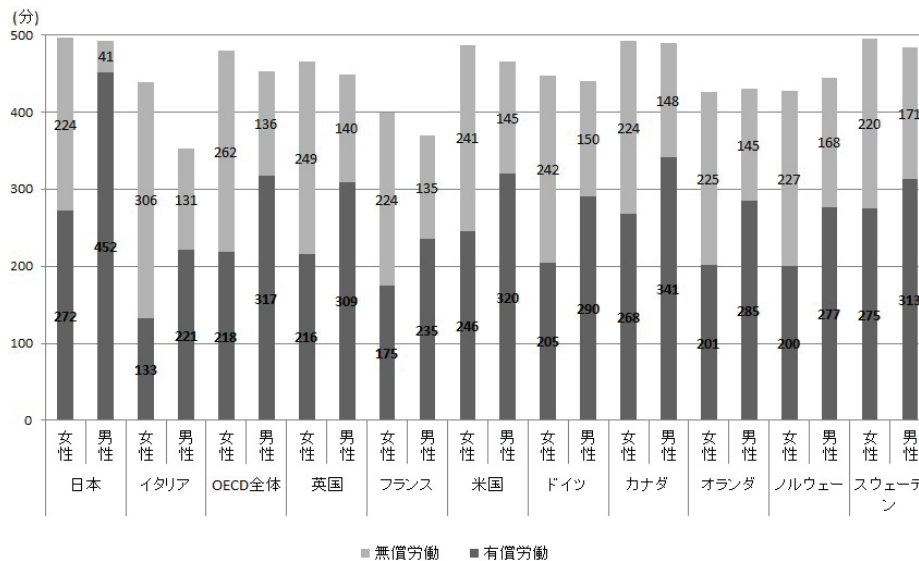
問2 次の4つの問題から1つを選択し、10行以上で、考えるところを論じなさい。

1. 相関関係と因果関係について、両者の違いがわかるような事例を取り上げて簡潔に説明しなさい。さらに、どのようなアプローチや考え方をを用いることで因果関係を明らかにすることができるか、社会科学の因果推論において典型的に用いられてきた手法や考え方のうち1つ以上を上げて論じなさい。
2. ソーシャルメディア (SNS) がもたらす社会への影響について論じなさい。
3. 「福祉国家の危機」について、福祉国家が機能する前提条件を踏まえつつ論じなさい。
4. 以下の図は、生活時間の国際比較データを男女別に示している。図に示すのは、「有償労働」「無償労働」の1日あたり時間の週全体平均である。これを参照のうえ、現代社会で課題となっている諸事象

のうち、図が示す内容と関連すると考えられるものを1つ挙げ、①問題点などの論点の整理、②あなた自身の考え、を中心に論じなさい。冒頭に論題を明示すること。

(出典：OECD Balancing paid work, unpaid work and leisure(2020)をもとに作成)

注：有償労働は paid work or study に該当する生活時間、無償労働は unpaid work に該当する生活時間。



OECD (2020), Time use database, <https://www.oecd.org/en/data/datasets/time-use-database.html>

問3 以下の「性とジェンダーに関わる若者支援」についての文章を読んで、次の問いに答えなさい。

もともと、ケアは女性が担うものとされ、長年家庭内で抱えられてきた。一方で、ケアを担う女性が不在の家庭では、男性がそれを担わざるを得ず、男性であってもケアと就労との両立は難しい状況にあった。介護離職について一時期報道が相次いだが、それは男性の介護離職が知られるようになったからではないだろうか。女性たちが同じ事態に直面してきたことは、これまで当然とされてきたし、現在も十分注目されているとは言いがたい。近年ヤングケアラーも社会的な注目を集めているが、根底には同様に①性別役割分業に基づく社会化されないケア労働の問題が横たわっている。ヤングケアラー対策として、さまざまな支援策が生まれることは望ましいことであるが、今一度それを生み出している社会構造にも目を向けるべきであろう。

現在、ひきこもり UX 会議等が進める「ひきこもり女子会」が注目を集め、全国で開催されるようになってきている。注目する自治体も多く、少しずつ施策に影響を与えつつある。こうした取り組みが、広がり、これから作っていくことに期待している。

同団体によって行われた「ひきこもり・生きづらさに関する実態調査2019」は、本章で紹介してきたさまざまな若者の声を相当に網羅する調査だった。例えば、コミュニケーションについて問う設問の中に、「男性に苦手意識がある」「女性に苦手意識がある」という項目があり、女性のうち42.0%が「そう思う」、31.5%が「ややそう思う」と合計73.5%が男性に対して苦手意識があると回答している（なお、男性のうち「女性に苦手意識がある」と回答したのは、「そう思う」で31.9%、「ややそう思う」で32.4%と、合計64.3%とやはり高くなっている）。また、ひきこもりの原因やきっかけを問う設問の選択肢に「性自認や性的指向」が設定されており、性別について「その他」と回答した者（80件）の41.3%が原因・きっかけとして「該当する」と回答している。こうした調査項目は、これまで設定されてこなかったものであろう。ひきこもり UX 会議は不登校、ひきこもり、発達障害、セクシャル・マイノリティの当事者・経験者たちのクリエイティブチームであり、当事者・経験者たちによって、こうした調査がなされたことは、その結果とともに調査実施者についても注目されるべき重要なことだと感じている。

若者支援に20年以上関わってきて、ややもすると②若者政策・支援事業が専門縦割化してきているのではないかと感じるものがたびたびあった。「若者」と言いながら、「就労」という観点からは後回しにされがちな女性や、就労に対する困難度の高い障害・障害グレーゾーンの若者や困窮世帯に育った

若者たち、専門支援にのりにくい10代の若者たち、あるいはLGBTQ+や外国人などのマイノリティの若者は、事業対象として視野に入りにくく、一部の「若者」しかカバーしないセクショナリズムによる「若者支援」が進められてきたのではないか。

こうした専門縦割化する若者支援の中に、当事者・経験者たちから新たな視点が提起されたことの意味は重要である。これまで、当事者・経験者の声を聞く際に一般的にとられていた方法は、若者支援団体・機関に依頼し当事者・経験者を紹介してもらった方法だった。しかし、女性の利用者が少ない団体・機関から女性の声が届く分量は小さくなり、支援現場で性的マイノリティであることや性被害を受けたことなどを話せていなければ、その声が届くことはない。

こども政策では、こどもの意見表明が重要な柱となっている。若者政策においても、当事者・経験者の若者の意見表明は大切な柱となるべきであろう。その際に、女性やさまざまなマイノリティの若者の意見がおいていかれないよう、丁寧な取り組みが必要である。また、最近声をあげた若い女性や性的マイノリティ当事者・団体へのバックラッシュが起きている。当事者の安全が脅かされることがないように、安心して声を届けられる配慮・社会的取り組みも重要である。

若者政策・支援は、この20年強で先駆者の時代から、全国へ支援が広がるユニバーサル化の時代を経て、当事者・経験者が中心となる時代に入っていると感じている。筆者のような専門家と呼ばれる者が、どんな役割を果たし、何を差し控えて当事者・経験者に任せるのか、性の権利とジェンダー平等が保障される社会の実現に取り組むとともに、政策・事業の進め方についても今一度再考する時期に来ている。

出典：鈴木晶子「性とジェンダー」（宮本みち子編著・監修『若者の権利と若者政策』明石書店、2023年、p.128-130）

1. 下線部①「性別役割分業に基づく社会化されないケア労働の問題」とは、どのようなものか。また、筆者はその対策として何に目を向ける必要があると考えているのか。本文に即して150字程度で説明しなさい。
2. 下線部②「若者政策・支援事業が専門縦割化」しているとはどういうことか、また、それによって生じる問題とはどのようなことか。これらを踏まえて、筆者は何を主張しているのか。本文に即して250字程度で説明しなさい。

社会学

<受験上の注意事項>

1. 答案用紙の記入の仕方

研究科名	専攻名	課程	受験科目名	受験番号	氏名
社会学研究科	応用社会学 専攻	後期課程	社会学	自分の 受験番号	自分の氏名

2. 解答方法

解答は答案用紙に記入すること。なお、裏面の使用や用紙の追加は認めない。

3. 持ち込み許可物件

持ち込み許可物件はなし。

4. その他

問題用紙・メモ用紙も提出すること。

— 社会学 — (横書き)

問1 次の20の語句から4つを選択し、それぞれの内容について説明しなさい。

1. オリエンタリズム
2. 労働市場の二重構造
3. 医療アクセス
4. 国民負担率
5. 近代家族
6. 世界システム (論)
7. 性別職域分離
8. アテンション・エコノミー
9. メディアはメッセージである
10. ジェントリフィケーション
11. 議題設定機能 (議題設定効果)
12. 半構造化インタビュー
13. ダブルバーレル質問
14. セツルメント
15. 近代スポーツと男性中心主義
16. 文化的再生産論
17. 承認をめぐる闘争
18. ベーシック・インカム
19. オリンピズム
20. 代表値

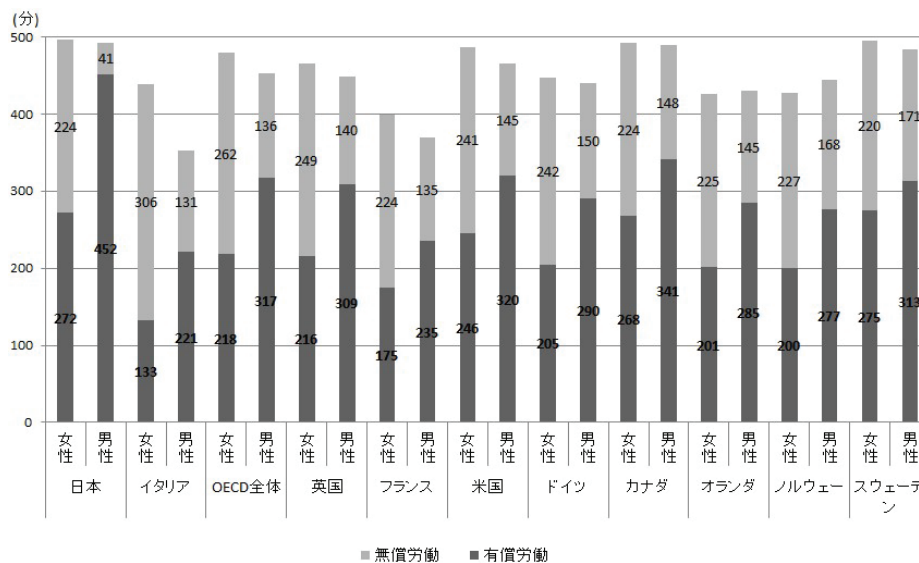
問2 次の4つの問題から2つを選択し、10行以上で、考えるところを論じなさい。

1. 相関関係と因果関係について、両者の違いがわかるような事例を取り上げて簡潔に説明しなさい。さらに、どのようなアプローチや考え方をを用いることで因果関係を明らかにすることができるか、社会科学の因果推論において典型的に用いられてきた手法や考え方のうち1つ以上を上げて論じなさい。
2. ソーシャルメディア (SNS) がもたらす社会への影響について論じなさい。
3. 「福祉国家の危機」について、福祉国家が機能する前提条件を踏まえつつ論じなさい。
4. 以下の図は、生活時間の国際比較データを男女別に示している。図に示すのは、「有償労働」「無償労働」の1日あたり時間の週全体平均である。これを参照のうえ、現代社会で課題となっている諸事象

のうち、図が示す内容と関連すると考えられるものを1つ挙げ、①問題点などの論点の整理、②あなた自身の考え、を中心に論じなさい。冒頭に論題を明示すること。

(出典：OECD Balancing paid work, unpaid work and leisure(2020)をもとに作成)

注：有償労働は paid work or study に該当する生活時間、無償労働は unpaid work に該当する生活時間。



OECD (2020), Time use database, <https://www.oecd.org/en/data/datasets/time-use-database.html>

【2025年4月入学】社会学研究科応用社会学専攻

外国語（英語）

<受験上の注意事項>

1. 答案用紙の記入の仕方

研究科名	専攻名	課程	受験科目名	受験番号	氏名
社会学研究科	応用社会学専攻	後期課程	外国語（英語）	自分の受験番号	自分の氏名

2. 解答方法

解答は答案用紙に記入すること。なお、裏面の使用や用紙の追加は認めない。

3. 持ち込み許可物件

一般的な英語辞書の持込を認めますが、辞書機能付の電子手帳等や情報通信機器の携行は認めません。

4. その他

問題用紙・メモ用紙も提出すること。

— 外国語（英語） —（横書き）

以下は、批判的思考について述べられた文章である。以下の問いに日本語で答えなさい。

‘Critical’ is a problematic term. When we talk about somebody being critical, we often mean that they are merely being negative. If we accuse somebody of being *too* critical, we are implying that they are being unbalanced, and failing to take account of the positive aspects of whatever they are discussing. ① On the other hand, we also accuse people of being uncritical: they are too besotted with admiration to see the bad sides of things as well as the good. There is often an element of ‘us and them’ about this. *We* are critical, while those who disagree with us are uncritical: their views are simply a result of their own stupidity. In this situation, it’s important to explain in more detail what I mean by critical thinking, both in general and specifically in relation to media education.

Learning is not simply a matter of access to information. We have to comprehend, interpret and apply information in order to turn it into knowledge. Critical thinking takes us a few steps further than this; it is about how we analyse, synthesize and evaluate information. Critical thinking obviously involves logic. For example, it means looking at how the steps in an argument are related, and identifying gaps and potential contradictions. It also entails a rigorous approach to evidence—identifying the kinds of evidence that are needed, evaluating the most reliable sources, assessing the quality and relevance of evidence, and considering the extent to which it actually proves what is claimed for it. Critical thinking involves questioning easy assumptions and considering alternative ways of looking at a problem. This often means challenging the way an issue is framed, or the terms in which it is defined; it requires us to look at what is included and excluded from the frame, and what the consequences of this might be.

Critical thinking is a reflexive process, in which we constantly have to question our own preconceptions, interpretations and conclusions. ② It means avoiding the rush to judgement, and recognizing the limitations of the claims we can make about what we know, and hence about how certain we can really be. It is not about signing up to a predetermined view of the world, or a fixed set of philosophical or political beliefs. Of course, we all have our own preconceptions and values. Critical thinking can’t enable us to step outside this, but it can help us to question it, and to be more rigorous about our own analysis. However, it is important that we do not confuse criticism with cynicism, or use it as a justification for resignation and apathy. Ultimately, critical thinking should also lead to critical *action*.

Critical thinking of this kind is especially important in our dealings with media. The reasons for this are fairly obvious. Beyond our immediate personal experiences, most of what we know about the wider world is conveyed through media. Indeed, in an age of social media and mobile communications, much of our private life is mediated as well. Media represent the world in particular ways, and make a whole range of claims about it. These claims are sometimes quite explicit, but they are often made ‘invisibly’: they may invoke assumptions, or press emotional buttons, or invite us to identify or respond in particular ways that may not be immediately obvious. They often involve narratives, stories of cause and effect or good and evil, which seek to engage our desires and fantasies. ③ And this may be much more complex when these claims are made in an audiovisual form, in which verbal language is combined with still and moving images, music and sound, and dramatic performance.

出典：Reprinted from The Media Education Manifesto, by Polity Press, Polity Press Ltd. Copyright © 2019 Polity Press Ltd.

問1 下線部①、②、③を和訳しなさい。

【2025 年 4 月入学】社会学研究科応用社会学専攻 博士課程前期課程

社会学

<受験上の注意事項>

1. 答案用紙の記入の仕方

研究科名	専攻名	課程	受験科目名	受験番号	氏名
社会学研究科	応用社会学 専攻	前期課程	社会学	自分の 受験番号	自分の氏名

2. 解答方法

解答は答案用紙に記入すること。なお、裏面の使用や用紙の追加は認めない。

3. 持ち込み許可物件

持ち込み許可物件はなし。

4. その他

問題用紙・メモ用紙も提出すること。

— 社会学 — (横書き)

問1 次の20の語句から3つを選択し、それぞれの内容について説明しなさい。

1. 地位達成モデル
2. 社会的反作用
3. スーパー・メディアとしてのオリンピック
4. ブロックバスター映画
5. 実証哲学
6. 層化二段抽出法(層化多段抽出法)
7. 発表ジャーナリズム
8. 拡大家族
9. エイジズム
10. 制度的アノミー論
11. ソーシャルワークの対象
12. 弱い紐帯の強さ
13. サウンドスケープ
14. 一般化された他者
15. 近代スポーツの特徴
16. 教養主義
17. 集合的消費
18. 福祉元年
19. 測定の信頼性と妥当性
20. 社会的孤立

問2 次の4つの問題から1つを選択し、10行以上で、考えるところを論じなさい。

1. 「個人と社会」の間に生じる矛盾のメカニズムとその解決策について、具体的な例を示しながら論じなさい。
2. 頻発する自然災害に対して社会学はどのように向き合うのかという点について、災害サイクルをふまえながら論じなさい。
3. われわれが持つ「記憶」がメディアとどのように関係し、編成され、生まれていくのかを、「集合的記憶」という用語と具体的な事例を用いて論じなさい。

4. 日本政府は 1970 年代後半から 1980 年代にかけて「福祉見直し」を行っていった。それがどのようなものだったかを論じなさい。

問3 以下の「大衆教育社会と学歴主義」に関する文章を読んで、次の問いに答えなさい。

著作権上の許諾が得られていないため非公開

(出典: 刈谷 剛彦著『大衆教育社会のゆくえ』中央公論新社, 1995 年)

1. 下線部①「生まれ変わり」について、日本の学歴社会の特徴をうまく言い当てていたと筆者が評するのはなぜか。本文に即して 150 字程度で説明しなさい。
2. 下線部②「学歴社会の否定的な側面を強調する議論」とはどのようなものか。「社会的出生」と関連づけながら、本文に即して 250 字程度で説明しなさい。

【2025 年 4 月入学】社会学研究科応用社会学専攻 博士課程後期課程

社会学

<受験上の注意事項>

1. 答案用紙の記入の仕方

研究科名	専攻名	課程	受験科目名	受験番号	氏名
社会学研究科	応用社会学 専攻	後期課程	社会学	自分の 受験番号	自分の氏名

2. 解答方法

解答は答案用紙に記入すること。なお、裏面の使用や用紙の追加は認めない。

3. 持ち込み許可物件

持ち込み許可物件はなし。

4. その他

問題用紙・メモ用紙も提出すること。

— 社会学 — (横書き)

問1 次の20の語句から4つを選択し、それぞれの内容について説明しなさい。

1. 地位達成モデル
2. 社会的反作用
3. スーパー・メディアとしてのオリンピック
4. ブロックバスター映画
5. 実証哲学
6. 層化二段抽出法(層化多段抽出法)
7. 発表ジャーナリズム
8. 拡大家族
9. エイジズム
10. 制度的アノミー論
11. ソーシャルワークの対象
12. 弱い紐帯の強さ
13. サウンドスケープ
14. 一般化された他者
15. 近代スポーツの特徴
16. 教養主義
17. 集合的消費
18. 福祉元年
19. 測定の信頼性と妥当性
20. 社会的孤立

問2 次の4つの問題から2つを選択し、10行以上で、考えるところを論じなさい。

1. 「個人と社会」の間に生じる矛盾のメカニズムとその解決策について、具体的な例を示しながら論じなさい。
2. 頻発する自然災害に対して社会学はどのように向き合うのかという点について、災害サイクルをふまえながら論じなさい。
3. われわれが持つ「記憶」がメディアとどのように関係し、編成され、生まれていくのかを、「集合的記憶」という用語と具体的な事例を用いて論じなさい。
4. 日本政府は1970年代後半から1980年代にかけて「福祉見直し」を行っていった。それがどのようなものだったかを論じなさい。

【2025年4月入学】社会学研究科応用社会学専攻

外国語（英語）

<受験上の注意事項>

1. 答案用紙の記入の仕方

研究科名	専攻名	課程	受験科目名	受験番号	氏名
社会学研究科	応用社会学専攻	後期課程	外国語（英語）	自分の受験番号	自分の氏名

2. 解答方法

解答は答案用紙に記入すること。なお、裏面の使用や用紙の追加は認めない。

3. 持ち込み許可物件

一般的な英語辞書の持込を認めますが、辞書機能付の電子手帳等や情報通信機器の携行は認めません。

4. その他

問題用紙・メモ用紙も提出すること。

— 外国語（英語） —（横書き）

以下の文章は、インタビュー調査について述べられた文章である。以下の問いに日本語で答えなさい。

Whatever the overall form of the interview, there are a few basic principles in the phrasing of questions which apply in any case. Questions should always be as simple and as straightforward as possible, in familiar language. ①Never ask complex, double-barrelled questions(*)—only half will usually be answered, and it often won't be clear which half. Avoid a phrasing which points to an unclear answer: for example, ask, 'How often did you go to church?', rather than, 'Did you often go to church?' Of course occasional hesitation does not matter at all, and may even win a little sympathy from the informant. But frequent apologetic confusion is simply perplexing, and is especially to be avoided as a style of asking delicate personal questions, since it only conveys your own embarrassment. A careful or indirect question, previously worked out and confidently put, is much better. It shows you know what you're doing, so the atmosphere is more likely to stay relaxed.

You will need a different kind of phrasing to establish specific facts and to get description or comment. The latter demands an 'open-ended' type of question, like 'Tell me all about ..?', 'What did you think/feel about that?', or 'Can you describe that to me?' Other cue words for this sort of question are 'explain', 'expand on', 'discuss', or 'compare'. If it is a really important point, you can encourage at length: 'All right, so you're in —. Shut your eyes, and give me a running commentary—what you see, hear...'. A physical description can also be suggested as a lead into an evaluation of a person's character. ②Right through the interview, whenever you get a bald fact which you think might be usefully elaborated, you can throw in an inviting interjection: 'That sounds interesting'; or more directly, 'How?', 'Why not?', 'Who was that?' The informant may then take up the cue. If, after some comment, you want more, you can be more emphatic ('That's very interesting'), or mildly challenging ('But some people say that ...'), or try a fuller supplementary question. In most interviews, it is very important to use both kinds of questions. For example, you may be told, as a general comment, that 'we helped each other out', 'we were all one big family in the street', but if you ask a specific question such as who outside the family helped when the mother was ill, it may become clear that neighbourly aid was less a practice than an ideal. ③Getting behind stereotyped or noncommittal generalisations to detailed memories is one of the basic skills, and opportunities, of interviewing work.[...]

In deciding on the possible shape for your interview, a fundamental issue is whether to focus overwhelmingly on a single theme— for example, an event, a period like wartime, a particular industry or sport— or to aim for a full life story, beginning with family background and running on through childhood and education to work, and later personal and family life. Because one of the greatest strengths of oral history and life story evidence is its potential to connect up different spheres of life, the life story approach, while more time-consuming, is more

likely to bring new insights. It also makes a fuller use of the opportunity in recording the memories of people who may never have been previously recorded, nor will be recorded again. For both reasons, the life story form is worth considering seriously for most projects.

出典 : Thompson, Paul, 2017, *The Voice of the Past: Oral History*, 4th ed., New York: Oxford University Press.

(*)double-barrelled questions : ダブルバーレル質問 (1つの質問文のなかで2つの内容を尋ねる質問文のこと)

問1 下線部①、②、③を和訳しなさい。